

脳の神経細胞が一番活発に発達していくのは三歳までということは医学的にも証明されています。幼児が言葉を覚えるのも、まさにこの時期なのです。「三つ子の魂百までも」という諺にもあるように、この時期に、言葉だけでなく、人間として基本的な能力が身につきます。この時期の教育ほど大切なものはないことを、まず念頭においていただきたいのです。

日頃、私たちは不用意にテレビをつけていますが、テレビが幼児の脳の発達におよぼす影響は大きいのです。というのは、人間の声というのは左の脳で聞いていますから、テレビから流れてくる機械の声ばかり聞かせて、人間の生の声を聞かせなかったら左の脳は発達しません。

お母さんの声をしっかりと聞かせないうちから、機械から流れる音を聞かせていたら、人間の声も他の音声と同じように右の脳で処理するようになります。

その結果、どうなるかというと、生まれた時からテレビを見て育った子どもというのは、人間の声に対して反応が鈍いのです。お母さんが声をかけても、それにあまり反応しないのです。

だいたいテレビの声というのは、反応する必要のないものです。一方的に入ってくるものです。テレビで育った子どもというのは、親と目を合わせない、親が声をかけても大した反応を示さないことが多いのです。

ですから、自閉的な子どもになる危険があると言われていています。自分で自分の世界に閉じこもって、親が声をかけても、テレビの音を聞き流すのと同じようになってしまっているのです。

こうなると、お母さんの言葉が吸収されにくくなります。吸収されないから頭脳が発達しません。言葉は音声と意味とが密着したものですから、そういうもので頭の中が満たされないと、本当の意味での“考える”という行為は行われません。

そう考えると、幼児がいる部屋でテレビを長時間つけっ放しにするのは避けるべきでしょう。